

平成 21 年 10 月 27 日

各 位

会 社 名 セガサミーホールディングス株式会社
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 会 長 兼 社 長
 里 見 治
 (コード番号 6460 東証第一部)
 問 合 せ 先 グループ代表室長兼グループコミュニケーション室長
 上 田 晃 一 郎
 (電話番号 03-6215-9955)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 21 年 5 月 13 日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

平成 22 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 163,000	百万円 △12,500	百万円 △13,000	百万円 △14,500	円 銭 △57.56
今回発表予想 (B)	154,390	△320	△730	△6,330	△25.13
増減額 (B-A)	△8,610	12,180	12,270	8,170	—
増減率 (%)	△5.3	—	—	—	—
(ご参考) 前年同期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	200,446	△7,578	△8,484	△9,554	△37.92

【修正の理由】

売上高については、主に遊技機事業において計画を下回る見込みです。パチスロ販売台数が計画値 4 万台に対して 5.7 万台となる一方、パチンコ販売台数が計画値 22 万台に対して 16.7 万台となるのが主な要因です。

営業利益については、遊技機事業、アミューズメント機器事業、アミューズメント施設事業およびコンシューマ事業において、計画を上回る見込みです。遊技機事業においては、パチンコの盤面販売比率が上昇したことに加え、パチンコと比較して利益率の高いパチスロの販売台数が想定を上回る推移をしたこと、ならびにパチンコ、パチスロともに販売価格が上昇したこと等により利益率が改善いたしました。また、研究開発費や販売手数料を中心に、営業費用が減少いたしました。アミューズメント機器事業においては、主に利益率の高い主力タイトルの販売および稼動が好調に推移いたしました。アミューズメント施設事業においては、店舗ポートフォリオの見直しや営業費用の削減に取り組みました。コンシューマ事業においては、費用として見込んでいた一部のコンテンツ制作費の計上が下期以降に繰り延べられました。

以上の結果、連結売上高 1,543 億円 (前回発表値と比較して 86 億円の減少)、営業損失 3 億円 (前回発表値と比較して 121 億円の収益改善)、経常損失 7 億円 (前回発表値と比較して 122 億円の収益改善)、当期純損失 63 億円 (前回発表値と比較して 81 億円の収益改善) を見込みます。

なお、平成 22 年 3 月期通期連結業績予想につきましては、第 3 四半期以降に計画する主力製品の販売動向を見極める必要があるため、現時点での修正はございません。

※本資料内に記載した業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上